

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 喜々)

事業所番号	0693000051		
法人名	株式会社 ライフネット		
事業所名	グループホーム ほなみ家		
所在地	山形県庄内町余目字四ツ興野123番地		
自己評価作成日	令和 2年 7月 21日	開設年月日	平成 22年 10月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常に理念を念頭に置き、利用者様の尊厳を大切に、丁寧な声掛けや対応をしています。利用者様の思いや気持ちに寄り添い、気遣いと心遣いを忘れずに、利用者様が安全で豊かな生活を楽しんで送れるように支援しています。利用者様の小さな変化も見逃さず、その時その時の状態に合わせた対応ができるよう、日頃から職員同士や医師、ご家族様との連携を密にとっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長期入所の利用者が多く、年々介護度がアップし、職員の負担が増えてきているが、工夫をしながら利用者とお過ごし時間を確保し、パンのバイキングや野菜作りなどの楽しみごとを取り入れ、健康で楽しく暮らせるよう支援している。利用者の「ほなみ家に居れば安心」という言葉が職員に対する感謝と信頼の気持ちを端的に表している。新型コロナ対策の分かりやすい行動指針を作成し、職員に周知している。感染防止の取り組みとして、訪問者の検温、手と身体の消毒、飲食物持ち込み禁止、マスクの着用を励行し、面会時の飛沫防止パーティション、除菌効果のある空気清浄機の設置など事業所を挙げて利用者への感染防止と安全確保に努めている。また、ワークスタイル変更への取り組みとして、オンライン面会、法人内事業所間のオンライン会議などに利用するためのインフラ整備も進められている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成 2年 8月 18日	評価結果決定日	令和 2年 8月 28日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりとお過ごし場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関と各スタッフルームに理念を掲示して共有しており、日頃より理念に基づいたケアを行っている。	理念を玄関・スタッフルームに掲示し、振り返りを行うことで実践状況を確認し、共有している。長期入所の利用者が多く、年々介護度がアップし、職員の負担が増えてきているが、工夫をしながら利用者で過ごす時間を確保し、パンのバイキングや野菜作りなどの楽しみごとを取り入れ、健康で楽しく暮らせるよう支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の公民館での文化祭へ作品を展示する等参加し、ボランティアや施設主催の夏祭りなどで地域の方から参加して頂いている。また、普段から散歩の時に挨拶や会話をする等の交流を図っている。	新型コロナ感染防止のため、認知症カフェや認知症サポーター養成講座への参加などの地域貢献、地域行事への参加、ボランティアの来訪などは中断しているが、感染状況を見ながら段階的に緩和していく意向である。利用者が楽しみにしている事業所行事は事業所内で単独で開催する予定である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェや認知症サポーター養成講座、町の秋祭りでの介護ブースを通じて、認知症について理解を深める事ができるように努めている。毎年数名、中学生の職業体験を受け入れており、介護の仕事について興味を持ち、将来介護士になりたいとの声も頂いている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者様や施設の状況等の報告を行いながら、話し合いの内容を議事録にまとめ、職員に回覧する事で各自意識を高め、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は行政、包括、自治会長、地域代表、家族代表などが出席し、2ヶ月に1回開催されている。新型コロナ感染防止のため、これまでは書面会議としていたが次回からは出席人数を制限し、対面会議と書面会議を併用していく予定である。今後の取組として、管理者は拘束防止委員会で検討された内容なども報告し、委員から意見を頂く意向である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議以外でも、不明な点や困っている事等を相談する等、日頃から協力関係を築いている。	運営推進会議を通して町職員に運営状況を報告している。今年度は特に役場からコロナ対応や災害に関する連絡・照会が頻繁に行われ、その都度助言を頂いたり、協力関係を築いている。町の移動図書館から貸し出される写真集や紙芝居などは利用者の楽しみになっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	拘束防止委員会を設置し、定期的に会議を行っており、年に一度はスタッフ会議等にて職員の研修を行い、全職員が身体拘束について正しく理解している。また、利用者様の行動パターンや状況を把握し、見守りや付き添い、所在確認をこまめに行い、拘束しないケアを実施している。	事業所方針「身体拘束ゼロ」を掲げ、研修会・マニュアル・話し合いなどを通して職員に周知している。見守り・寄り添い、所在確認を強化し、利用者の安全確保や身体拘束をしないケアに努めている。また、拘束防止委員会を定期的で開催し、職員の自己点検チェックシートの集計結果を基に、原因と対策を検討し、ケアに活かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についてもスタッフ会議等にて研修を行い、虐待について正しく理解している。また、年に2回、拘束防止委員会にて職員アンケートを実施し、全職員が虐待についての自己評価を行い、記入式アンケートでは、他職員のケアについて気付いた良い点や悪い点等を上げてもらい、話し合いや情報交換を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修を受講した職員が、ユニット会議にて伝達講習を行ったり、復命書にて回覧し、学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約時は本人やご家族様に十分な説明を行い、不安や疑問に思う事はないか細かく聞き取りを行いながら、理解と納得頂けるよう努めている。また、改定等があった際は、書面と共に個別に説明する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様に関しては、日常会話の中で困っている事や要望等の聞き取りを行っている。ご家族様に関しては、面会時に最近の様子や状況等の報告を行いながら、要望等はないか意見の聞き取りを行っている。要望等があった際は、全職員に申し送りし、改善に努めている。また、ご意見箱を設けて匿名で投函できるようにしている。	普段から利用者の声に耳を傾け、面会時に家族の意見・要望を聞き取りしている。また、家族が気軽に話せる雰囲気づくりに努め、信頼関係を築くよう取り組んでいる。面会が難しい家族には、おたよりで利用者の生活の様子や新型コロナウイルス感染防止への取り組みなどについて報告している。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議にて意見や提案を聞く機会を設けている。また、必要時に代表、または管理者と個別面談を実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務体系(夜勤や早番等の回数)や希望休については管理者が定期的に全職員に聞き取りを行い、希望に添うように勤務表を作成している。職員の勤務状況や実績等を把握しながら、職員にとって働きやすくやりがいを持って働ける職場環境になるよう、随時個人面談等をおこなっている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修や実務者研修は働きながら資格取得が出来るよう、助成金制度を設けている。また、実践者研修等一人ひとりに必要な研修等を受講する機会を設け、更なるレベルアップが出来るよう取り組んでいる。研修委員会を設置し、年2～3回、内部研修を行っている。	外部研修は中断しているが、研修委員会が企画する、実務に沿った研修が行われている。必要に応じ、代表や管理者が職員面談を通して希望勤務時間割・希望休・職種・提案・要望などを聞き取りし、運営に取り入れることで、働きやすく、やりがいの持てる職場環境を実現している。また、各ユニットに主任を1名ずつ配置し、将来の管理者候補として、管理者がOJT方式で育成にあたっている。	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修会や勉強会、交流会に参加した際、情報交換を行い、良い所を取り入れる等し、サービスの質の向上に努めている。	酒田地区地域密着型事業所連絡会の研修会・交流会への参加し、情報交換を行い、ネットワークづくりやサービスの向上に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の声や希望、不安に思っている事等を傾聴し、安心できる声掛けやコミュニケーションを心掛けて信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の声や希望、不安に思っている事等を傾聴し、安心できる声掛けや対応を心掛けて信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族様の要望を確認し、本人とご家族様の現在の状況や状態を把握した上で、現時点で必要としているサービスを見極め、施設として出来る事を検討し、他のサービスも含めた利用が出来るように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は家族の一員として共に生活させて頂くという姿勢を大切にし、アットホームな雰囲気を大事にしながら、喜怒哀楽を出せるよう支援し、お互いが家族のような信頼関係作りをしている。また、家事手伝い等本人に合った役割を持って頂き、共に日々の生活を支え合える環境を作っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人とご家族様の絆を大切にしながら、共に支えていく関係作りを心掛けている。面会時や、必要に応じて電話連絡を行い、情報提供・交換を行い、必要に応じて協力をお願いしている。受診等の付き添いもご家族様にお願いしている。毎月、ご家族様に対し、担当者からお手紙を渡し、近況等報告している。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の方が面会しやすい環境づくりをし、これまでの人間関係を維持できるよう努めている。外出の機会を極力設け、ドライブの際、自宅付近に出掛けたり、行きつけの美容院に通っている方もいる。家人との思い出の写真や品等を居室に飾り、折に触れて思い出せるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の特徴や性格、お互いの相性を把握し、楽しく会話ができるよう座席を配置したり、会話の話題を提供したり、コミュニケーションが円滑に行えるよう利用者様同士の関係作りに努めている。また、トラブルにならないよう事前に介入し、関係が悪くならないように配慮している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移動しても、遊びに行ったり来たり等の機会を設けている。必要に応じて、相談や支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で思いや希望、意向の聞き取りや確認を行っている。聞き取りが困難な場合は、日常の行動や表情から本人の意向を検汲み取り、検討している。	センター方式アセスメントシートを用い、利用者との日常会話や家族からの聞き取りなどから利用者の思いや意向の把握に努めている。気づきを申し送りノートや介護記録に記録し、ユニット会議で話し合い、ケアプランにつなげている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族様、関係機関にこれまでの生活歴や暮らし方、生活環境等の聞き取りを行い、情報を収集している。また、新しく得た情報は随時追加し、職員で共有している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間暮らしのまとめシートを作成し、一人ひとりの状況等を把握するよう努めている。心身の状態の変化や特変時は必ず記録し、申し送りや連絡ノートを活用して職員間で情報を共有している。毎日2回以上のバイタル測定で体調の把握に努めている。普段から観察を行い、少しの変化も見逃さないよう心掛けている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	(10)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ケアプラン作成時はアセスメントにて本人とご家族様から意向等を聞き取り、ユニット会議にて職員間で意見交換を行い、現状に即した適切なケアプランを作成している。モニタリングは3カ月に1回行っている。</p>	<p>3ヶ月毎にモニタリングを行い、評価を繰り返しながら、6ヶ月毎に再アセスメント、介護計画の見直しを行っている。見直しにあたっては、モニタリング結果や再アセスメントを踏まえ、家族の意見や要望を確認し、ユニット会議でアイデアを出し合い、できること・得意なこと・楽しみごとなどを盛り込み、利用者の暮らしが見える介護計画を作成している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子だけでなく、発した言葉や思い等も個別記録に記入し、気付いた点や特変時は介護記録だけでなく連絡ノートに記入し、申し送り等で情報を共有している。毎月のユニット会議にて情報交換や検討を行っている。それを基にモニタリングを行っている。</p>			
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>図書館から図書の貸し出しを受けており、月に1回図書の交換を行っている。地域の公民館で行われる文化祭に出展する作品を作成して見学に行っている。</p>			
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している</p>	<p>状態に応じて適切な医療が受けられるように支援している。協力医療機関からは毎月の往診、かかりつけ医への定期受診はご家族様に付き添いをお願いし、都度医師やご家族様に情報提供し連携を図っている。必要に応じて、職員も受診に同席している。また、必要に応じて歯科医の往診も依頼している。</p>	<p>利用者・家族が希望するかかりつけ医となっており、通院支援は家族が行い、利用者の日頃の様子を書面で医師に情報提供している。受診結果は電話やおたよりなどで家族に報告し、共有している。協力医療機関の医師による毎月定時の往診のほか緊急時には夜間・休日の往診も行われており、利用者や職員の安心につながっている。また、歯科医の往診も行われている。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>看護師に心身の変化や気付いた点を報告し、適切な指示を受けている。また、疑問点があれば尋ねて、意見を聞いている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時、情報提供を行っている。入院中は相談員等と連絡を密にとりあい、状況・状態の把握に努め、早期に退院できるよう支援している。退院時は管理者が実調に行き本人や医師、看護師等と面談を行い、現状やケアの上での注意事項等を把握し、退院後も混乱なく日常生活に戻れるよう支援している。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時に本人やご家族様の看取りに対する考えや意向の聞き取りを行い、施設で出来る事の説明を行っている。レベルダウンが見られたら早期に看取りに対する意向等の再確認を行っている。ターミナルケアに入ったら、ご家族とこまめに話し合い、要望や希望を汲み取り、希望に添えるよう、医療関係者と共に連絡を密にとりながら取り組んでいる。その時々々の病状や治療方針をチーム全体で把握しながらケアに努め、納得のいく最期を迎えられるよう最大限に支援している。</p>	<p>早い段階からできる事、できない事や看取りについて家族に説明するとともに、希望する終末期対応を記載した「事前確認書」を提出して頂いている。重度化した場合は終末期対応の意向の再確認を行い、医療機関・看護師・家族・職員で話し合い、方針を確認しながら、その人らしい最期を迎えられるよう支援している。</p>		
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的に内部研修にて、救命救急講習会を実施し、訓練を行っている。急変時マニュアルを各ユニットのスタッフルームに掲示し、急変時に冷静に対応できている。</p>			
34	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回、利用者様参加型で避難訓練(火事・地震・水害・夜間想定・緊急連絡網の通報訓練)を行っている。内、1回は消防署立ち合いの基行い、評価を頂き改善している。マニュアルも整備されている。</p>	<p>年2回うち1回は消防署の協力を得て、火災、地震、水害などを想定した避難訓練や通報訓練を実施している。地域住民への連絡網も整備されており、防災グッズや食料の備蓄なども行われている。前回目標に掲げた「夜間の停電想定での防災訓練」は取り組みが行われている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の人格や意見を尊重し、本人のプライドやプライバシーを傷つけるような声掛けをしないよう、普段から職員同士気を付けている。元気で明るい声掛けを心掛けているが、トイレ誘導の際の声掛け等は、静かに行うよう配慮している。スタッフ会議にて、随時注意喚起を行っている。	接遇研修を通して「人格の尊重」を職員に周知している。普段から職員同士で注意し合い、会議で注意喚起を行うとともに、利用者が恥ずかしがる言葉は耳元で小声で伝えるなど誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し、本人が決定できるように支援している。意思表示が難しい利用者様に関しては、色々工夫して意思を聞き出したり、思いを汲み取るようにしている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のその日、その時の希望、要望を尊重し、一人ひとりのペースや状態に合わせてストレスがないように支援している。食事の時間や入浴日等も、本人の希望に合わせて変更し対応している。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が着たい服を一緒に選んだり、髪型も分け目等、本人の好みで行っている。行事の時には化粧をする等のおしゃれを楽しんでいる。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	給食委員会にて、利用者様に嗜好アンケートを実施し、メニューに反映させている。野菜の皮むきや盛り付け、食器拭き等、利用者様から手伝って頂いている。行事食では普段と違った盛り付けや食材で季節感を出しながら味わって頂いている。	食事の外部委託が進む中で、「食も大切なケア」という事業所方針に基づき、利用者も参加し、3食ともキッチンで調理を行い、家庭的な雰囲気の中で食卓を囲み、職員との会話を楽しんでいる。給食委員会が嗜好アンケートを反映させた献立を作成し、パンのバイキングで変化を持たせたり、行事食で利用者の好物である刺身や生寿司が振る舞われ、食事が楽しみなものになるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録し、不足しないように対応している。本人の状態に合わせて、常食、一口大カット、極刻み、ソフト食、ミキサー食、汁はとろみで対応し、都度食事形態や提供量を調整している。また、体重の増減より、分量の検討を行っている。減少が著しい場合は栄養補助食品を提供している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き等の声掛けを行い、自力での歯磨きでは不十分な場合は磨きなおしをしたり、口腔内の清潔に努めている。必要に応じて歯科往診を依頼しており、定期的にケアして頂いている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握して、トイレ誘導等を行っている。立位が困難な利用者様は職員が2人で対応し、できるだけトイレでの排泄を行って頂き、気持ちよく過ごせるよう支援している。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、適時声掛けや誘導を行うとともに身体能力が低下した利用者は職員2人で介助し、出来る限りトイレで排泄できるよう支援している。下肢筋力低下防止の軽体操も行っている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や乳製品を摂って頂き、体操等を行い、必要に応じて腹部マッサージを行い自然排便を促している。便秘の方は下剤調整を行っている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴前に声掛けし、本人の希望を確認し楽しんで入浴ができるよう支援している。お湯の温度も好みに合わせて調整している。また、その日の体調や気分に合わせて、時間や日にちをずらして対応している。	利用者の体調や希望に沿って週2回の入浴を支援している。身体状況に応じて安全に入浴できるよう一般浴槽2室のほか特殊浴槽も設置されている。入浴時はコミュニケーションを深めるとともに、皮膚の状態や褥瘡の有無をチェックしている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の習慣やその日の状態に合わせて自由に休息して頂いている。就寝時間も本人に任せており、日中は活動的に過ごして熟睡できるように支援している。湿度・室温調整も随時行い、快適に過ごして頂けるよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能や用量、副作用等確認し把握している。薬の変更があったら看護師と連携し、状態の変化等無いか、しばらくの間いつも以上に気を付けて様子観察を行っている。服薬時は職員間でトリプルチェックを行い、飲み込み、飲み忘れ、誤薬がないよう確実に服用するまで確認を行っている。		
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活や会話等から、本人の得意な事を把握して、役割を持って頂いている。家事手伝いも皆で協力し合い行う事により、一人ひとりの力を活かしながら生活できるよう支援している。また、楽しみにしている事や、好きな事も把握し、個人レクを充実できるよう支援している。できるだけ外出の機会を設け、気分転換の機会を設けている。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は率先して散歩やドライブに出かけ、気分転換できるように努めている。冬季以外は、毎月ドライブレクを企画し、利用者様に楽しんで頂いている。また、お盆や正月等、ご家族と相談し、お墓参りに行ったり、自宅で過ごす機会も設けている。	近隣の神社への散歩、ウッドデッキでの日光浴・プランターを利用した花や野菜づくり、敷地内の花見など戸外に出る機会をできるだけ確保している。また、例年実施している家族の協力を得ての一時帰宅や墓参りなどは今年は新型コロナ感染防止のため、中止している。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常的に金銭を使用する機会はありません、基本的にご家族様が管理している。認知症を理解した上で、現金の所持、使用については個別に慎重に検討した上で、管理能力のある利用者様については所持し、使用している。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望にて、電話でやり取りをしたり、定期的到手紙等を送って下さるご家族様もいる。自分でできない方は職員が代行して行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	デッキでは季節の花や野菜を利用者様と一緒に育て、収穫等も一緒に行っている。居室が分からなくなる利用者様やトイレには分かりやすい表示をしている。ホールは外からの明るい日差しが常に入り込み、毎日掃除、整理整頓を行い常に清潔な環境にし、壁には毎月、季節感を大事にした職員手作りの装飾をし、心地の良い空間づくりを心掛けている。	明るい共有空間は、適切な温度・湿度管理が行われ、掃除・整理整頓が行き届き、清潔な環境となっている。室内は落ち着いた色調で統一され、心安らぐ空間となっている。季節を感じられるように草花・手作り創作品などを飾り付けることで、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫されている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様一人ひとりが、好きな時に好きな場所で思い思いに過ごせるよう、落ち着く場所づくり、環境づくりを行っている。また、施設内、自由に動き回り、隣のユニットにて仲の良い方と一緒に過ごしている利用者様もいる。			
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に写真や思い出の品、家具や遺影等を自由に飾る等、本人が安心して居心地よく過ごせるよう、工夫している。また、誕生日のプレゼントや色紙を飾る等し、殺風景にならないよう、工夫している。	利用者と職員が掃除を行い、清潔な環境づくりに努めている。馴染みの調度品、遺影や家族の写真などを持ち込み、好みの飾り付けを行うことで自宅と変わぬ雰囲気の中で居心地よく過ごせるよう工夫している。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の力量に応じて家具の配置や手すりの設置場所にも配慮し、また、随時検討しながら安全な環境づくりに取り組み、なるべく自立して生活できるよう支援している。また、怪我につながらないように、共用の場所や居室、廊下等の環境整備を行い、移動しやすいように配慮している。			